

第5次魚津市総合計画基本構想案へのご意見と市の考え方

No.	ご意見	意見要旨	魚津市の考え方
1	<p>そもそも世代間、お互いの価値観は共有できないもの。 また同世代の価値観も多様化するなか、スマホ一本で多彩で大量の情報を得る時代の現実かもしれません。 そこでまず各覚悟とか決意がにじみ出る基本構想にするために四文字熟語や造語を所々に盛り込んでみてはいかががでしょうか。例えば、36ページ-将来都市像-とものつくる…を-以心伝心2026-とものつくる…に変更や、40ページ 3魅力的な地域資源…文中の海岸線の名称、日本風景街道に対して魚津の山岳地帯を『魚津三大アルプス』と表現、解説すると実在の毛勝三山を片貝地区里山を北アルプス・松倉地区里山を松倉アルプス・天神地区里山を天神アルプスと、言葉の表現にこだわりを持ち話を広げ施策に反映するのも大事かと思えます。 また、政策施策の文書をルビ付きで抜粋し冊子・ファイル化タイトル『小学生にも声に出して読んで欲しい政策集』とし授業に活用・総合計画基本構想の話題づくりに活用してみてはいかががでしょうか。 また政策・施策のアイデアの投稿窓口・サイトバナーがあっても、例えば市長への手紙バナーに政策・施策アイデア募集と明記する事も市民参画の観点から今後必要かと思えます。 今後県知事さんも交代し時代も魚津も変化していくと思えます、魚津市役所若手職員さんにあっては無理をせず『夢と現実』『割り切り』も悟ること大事です。 将来の魚津の舵取りをよろしくお願いいたします。 (11/6 追加) 2回目の投稿、前回の追記メールです。 アメリカ元大統領 ジョンFケネディ氏の名言に『国が貴方の為に何をしてくれるのかを問うのではなく、貴方が国の為に何をなす事が出来るのかを問うて欲しい。』多少強いめの文言文章となりますが、この名言を魚津市に置き換えて総合計画に記載されてみてはいかががでしょうか。 余談 田舎臭さを助長させる地域に伝わる古き良き時代の慣習慣例等を見直し、次世代を担う若者の思想が良き方向に向かう総合計画である事と期待しています。</p>	<p>①覚悟や決意がにじみ出る基本構想にするために四文字熟語や造語を所々に盛り込んでみてはいかががが。 ②『小学生にも声に出して読んで欲しい政策集』として子どもにもわかるものをつくり、ふるさと教育に役立ててはいかががが。 ③市ホームページに政策アイデアを募集する窓口を作成してはいかががが。</p>	<p>①基本構想ではありませんが、基本計画については、市民の皆様が親しみを持つことができる名称をつけることを想定しています。こちらを検討する際にいただいたご意見につきましては、参考にさせていただきます。②10年後のまちづくりの主演となる小学生にこそ総合計画を知ってもらふべきだと考えており、子どもたちにわかりやすい冊子の作成も検討してまいります。③広聴の方法につきましては、これまで様々な方法を検討・実施してきましたが、今後もより伝えやすい様々な方法を検討してまいります。</p>
2	<p>(第3章魚津市の主要課題「6. 快適で暮らしやすいまちづくり」、第5章政策「3. 輝くまち」「12. 安らぎとにぎわいのまちづくり」) この項目にもいづれも中心市街地への居住や都市機能の集約を目指す。コンパクトなまちづくりを進めるとあります。理解はできますが、一方、中山間地における人口減少や地区が消滅化へと進んでいる現実があります。大きな課題だと思えます。中山間の地域でも生活し続けたいという人々はいます。そういう地域社会は持続させなければなりません。市街地は市街地で、中山間地は中山間地でそれぞれ自立しながら協働しあい、循環しそれぞれ持続可能な社会でなければなりません。地域住民や地域組織（地域振興会など）が地域づくりにがんばっています。この視点に立って1項目考えられたら良いのではないかと考えます。</p>	<p>コンパクトなまちづくりを目指すとするが、中山間地域の振興という視点を盛り込まれてはいかががが。</p>	<p>中山間地域の振興につきましては、基本計画「施策7. 水と緑の保全と活用」、「施策23. 農業の振興」などの各施策に基づき、田園や自然環境を活かしながら住み慣れた土地で快適に暮らすことができるよう、引き続き取り組んでまいります。</p>
3	<p>「魚津市を取り巻く動向」への意見 1 今後10年の魚津市の施策方針に向けての現状分析としては、ここ50年の変化動向を分析し、本市の地理的歴史的特徴を把握して、具体的な重要問題をあぶり出しことに欠けている。 2 様々なデータが出されているが、もっと詳細な調査分析はされているのか、疑問である。 1について 人口減少少子高齢化、経済環境の変化等の分析は正しい。しかし、その原因や根本的問題点を洗う必要がある。 魚津市は県内(新川地区も)他市町に比べ、海岸線が狭く急激に傾斜して山岳地へ続く、平野部分が非常に小さい市である。そのコンパクトな平野部分に、新川地区の中心地として人口が密集した住宅地が形成されてきた。コンパクトで密集した旧市街地という条件設定をまず明確にしておかなければならない。 その住宅密集地であった旧村木・大町小学校校下は、大火で被災した地域は道路が拡張したが、それ以外の地区は戦前の町並みそのままと言ってよい、道路事情や長屋的な狭い住宅密集地が現在も残り、その狭い住宅から若い世代が独立し、人口の空洞化、高齢世帯高齢独居者、そして空き家問題へとつながっている。山間地中山間地の空き家問題も重要だが、貴重な平野部分、元々市街地住宅地として商業施設や教育機関行政機関医療機関が充実していたこれらの地域の空洞化は、当市の再構築のための最も重視すべき、そして避けて通れない問題として取り上げるべきだ。 先に述べた旧市街地から流出した人々は、加積など農業中心の地区に住宅地を求め、多くの住宅が建った。しかし、都市計画に基づかない任意の住宅開発が続いたため、道路や用水路の整備が行かず、ここでも社会インフラの</p>	<p>①第2章「1. 魚津市を取り巻く社会状況」について、本市の地理的歴史的特徴を把握したうえで現状分析に欠けている。 ②第2章「2. 魚津市の概要」、「3. 市民意識の動向」について、詳細な調査分析をすべきである。 ③第3章「魚津市の主要課題」について、課題分析との整合性が不十分であり、記載する順序を再考するべきではないか。 ④都市の再構築や旧市街地の再開発、道路網の整備に軸足を置くなど、魚津市の将来の都市像をしっかりと検討してほしい。また、住民の減少高齢化が深刻となるなか、自治組織の再編成に取り組み、若い世代を取り込むべきだ。</p>	<p>ご意見いただきました点につきましては、序論の構成や今後の基本計画策定にあたって、十分参考とさせていただきます。ここでは、ご意見の要旨に沿って回答させていただきます。 ①第2章「1. 魚津市を取り巻く状況」で整理したいポイントは、日本全体の社会状況や世界の潮流といった内容です。 ②第2章「2. 魚津市の概要」、「3. 市民意識の動向」については、多くの調査結果等の抜粋であり、詳細については各分野ごとに策定している個別計画で整理でき</p>

不備や災害や事故の原因を生んでいる。

そして、新しい住宅地も30年ほどで高齢化を迎える。同じ時期に同じような世代が入った分譲地は同時期に町の寿命を迎えることになる。そして、新たな分譲地へ次の世代が移動する。

この使い捨てのような土地利用住宅建築を放置すれば、平野部の少ない当市はやがて住宅地不足となり住めない町になるのではないか。そうならないためには、住宅地の再利用再開発再構築の視点が絶対必要である。

また、国策企業でもあった日本カーバイドが関連企業を含め市の中心産業として位置づけられてきた。その日本カーバイドの生産縮小によって、市の産業の指針を再構築する必要に迫られている。ここでも平野の少ない本市の地理的条件が大規模工場誘致には厳しい条件となる。

一方、数年来増え続けていた外国人を含めた旅行者の宿泊先となる、ホテルや旅館は全国的に不足しているが、新川地区では本市がその拠点となっているのではないか。また、飲食店の数も人口比では非常に多いのは、昔からいわれてきた大きな産業特徴である。このことへの言及がないのは不十分といわざるを得ない。

これらのことを踏まえつつ新たな産業の展開を図る決意が導かれるべきではないか。

魚津市の概要に地図が添付されているが、道路状況の詳しい記述はない。市を東西に直進のみで横断する道路はどれだけあるか。8号線と旧8号線のみである。また、海岸から山間部へ直進のみで縦断する道路はどれだけあるか。寡聞にしてその存在を知らない。また、8号線の完全片側2車線化はいつになるのだろうか。

このような交通網の不備が、朝夕の交通渋滞を生み、降雪時の除雪を滞らせている。先に述べた住宅地の再開発と一体に都市計画の基づく道路整備計画の策定は欠かすことはできないものだ。

以上まとめると、次の5点である。

① 狭い海岸線と急激な傾斜で少ない平野部分という魚津市の地理的条件、古くから新川地区の政治経済の中心地として旧市街地が形成されていた歴史的条件、無秩序な宅地化や場当たりの道路整備による交通網の不備などの戦後都市開発の経緯に踏み込むべきである。

② 旧市街地の現状、特に高齢化空き家化空洞化と道路区画の未整備への認識と再開発の必要性への言及が必要。

③ 農業地域から急激に住宅地化が進んだ地域の道路用水路などの社会インフラ未整備問題への言及が必要。

④ 魚津の歴史的地理的条件からの産業展開への言及が必要。

⑤ 道路網未整備を現状として認識し言及する必要。

2について

第2章2魚津市の現状に様々な資料がある。しかし、今後の本市施策の方向を定める計画であるならば、もっと詳細なデータを分析すべきである。

例えば、世帯数の推移を見れば世帯数が増加し1世帯あたりの人数が3.6から2.7に減少している。核家族化や少子化、高齢世帯高齢独居世帯が増加しているのであろうし、市内のアパートマンションの増加もその一因であろう。

大切なのは、どの地区はどのような世帯年齢構成、世帯人数になっているのか、どの地区に世帯数が増えているのか、など国勢調査などから知り得るビッグデータ(大げさだが)を分析して把握することではないのだろうか。この先の人口減、空き家化、自治組織の消滅の危機がいつ頃どのように起きるのか、地区別の予測はデータから可能であり、それを知ることで対策方針が生まれるのではないか。

転入転出のデータも面白いと思った。私の周辺でも新しい分譲地に入る人たちを見ると、思いのほか他市町村からの流入者が多い。魚津市に住みたいと思っている人が多いのかと嬉しくなった。これは、「就業者通学者の就業地通学地」のデータを見ても、本市以外への就業者通学者が本市への人数を上回っているが、黒部入善朝日滑川からの就業者通学者が多いことに注目した。この中には魚津市からの転出者もいるだろうが、これらの人たちの中に魚津に移住を希望する人もいないのではないか。

これらの潜在的移住希望者を、市外からの流入者に調査をかけることで見いだしていけないのだろうか。

県外からの移住者を集める努力も必要だが、潜在的に移住希望が存在するならそれに取り組むことのほうが人口増の近道である。

同時に、移住希望を叶えるためには住宅地の掘り起こしは不可欠であることを再度述べておきたい。

「市民意識調査の結果」についても、分析が不十分だ。

注目すべきは、「市の悪いところ改善すべきところ」であるはずだ。ここに市政への要望が出ているのであり、その2位3位の「交通の便が悪い」や「出産・子育て環境がよくない」を深く掘り下げ調査すべきではないか。市民が改善すべきとしている点こそが今後検討すべき中心問題である。当然基本計画の中心課題が浮かび上がっていると捉えるべきだが単なるアンケート結果としてしか見られていないようだ。

以上まとめると

① 今後の人口推移、高齢化、空き家発生などをデータに基づいて予測し、施策への視点を提示すべき。

るものと考えています。

③第3章「魚津市の主要課題」の記載順序は恣意的に行ったものではなく、その重要度は軽重を意識したわけではありません。

しかしながら、ご指摘にあるとおり、市民の皆様の声や様々なバックデータから導き出される行政需要に真摯に向き合い、魚津市としての順序付けを行うことは重要な視点と考えられることから、12個の主要課題の記載順序を再考することといたします。

④魚津市の将来の都市像については、人口減少問題に関連し、中長期的な視点から検討を進める必要があると考えており、本計画のみならず、各個別計画においても、本市が目指すべきまちの在り方について、検討を行ってまいります。若い世代の取り込みについても、人口減少の進展により、若者の総数も減少していますが、その中でも魚津市の将来を考え、行動に移す若者の育成に取り組むとともに、魚津市を活躍の場として選んでくれる若者の増加に向けた取組を検討してまいります。

- ② 市外からの転入者の調査を行いどこからどんな理由で転入したかなどを明らかにし、転入希望需要を把握すべきだ。
- ③ 市民アンケートをより細かく分析し、市民の求める改善点を明確にすべきである。

「魚津市の主要課題」への意見

1
なぜ主要課題の1番が「市民参加・協働の推進」なのだろうか。
本市が少子高齢化空き家の増加が大きな問題となり、市の存続をかけた大きな転換点を迎えつつあることは事実である。
今後10年20年の長期視野に立った課題の筆頭には、変化に対応するための最重要課題を置くべきである。それが「市民参加・協働の推進」であるとは到底思えない。提案者の恣意的誘導ではないのか。市は大きな課題に取り組む財政的人的資源がないから後は市民でなんとかしてほしい「自助共助公助」的な主張を、冒頭に持ってきたとしか思えない。自治振興会の設立や市民参画・協働の町作りの推進を謳っているが、「今後はさらに、市民や地域が持つ力を活用した活動を促進するとともに、市の施策についても、市民が役割を持ち、市民が主役となる市民自治の推進に努める必要があります」という文言が市一番の主要課題だというのは、ここまでの情勢分析にも出てこない唐突な課題提示であり、率直に言えば問題の市民への丸投げ、市の責任放棄の姿勢としか見えない。
市民の市政参加や主体的な役割分担は誰も厭うものはない。大事なのは、魚津市の抱える問題をしっかり示し、市民が納得共感できる目指すべき未来の魚津市の姿を提示することではないか。
課題の10番目でしかない「人口減少時代におけるまちづくり」には人口減少を大きな課題として捉えているが、人口減少が地域社会や自治組織の弱体化や機能不全そして消滅の危機に向かっていることには言及がない。課題の一番の「市民参画・協働の推進」の中心組織と位置づけている自治組織が弱体化することに触れずにおいて、課題解決につながるだろうか。
課題分析との整合性が不十分で、これまでの施策を踏襲する形での課題設定になっている、一種の結論ありきの課題提示ではないだろうか。

2
「地域資源を生かしたまちづくり」が市民意識調査の結果に基づいて2番に設定されているが、これも疑問である。疑問なのは順序設定である。
市民意識調査の「市の良いところ・自慢できるところ」の1位～5位の自然の良さ食べ物飲み水の良さ治安の良さは、県内あるいは新川地区共通の良さであり、本市独自のものではない。改善点の、「観光資源が生かされていない」ということも本市独自とはいえない。
この課題はいらぬとはいわないが、なぜ主要課題の2番なのか。順序の高い課題には、市民意識調査の「市の悪いところ・改善すべきところ」の2位3位の「交通の便」「出産・子育て環境」を置くべきではないか。
結論的にいうと、第2章でみた市の現状を基に課題を設定すれば、人口減少空き家問題を正面から見据えることだ。また、本市の歴史的地理的条件の転換点をしっかり目を背けずに取り上げるべきだ。
魚津市は新川地区の政治経済文化交通人口全ての中心地としてのプライドがある。平成の大合併でもそのことを感じた。しかし、北陸新幹線の開業、製造業の他市へ転換、人口減少など、中心都市としての機能を失いつつあるのは事実である。
そして、コンパクトな市街地形成が効率的な行政や市民生活を支えてきたが、自動車社会の到来・市街地からの人口流出・住宅地の拡散拡大が、道路網水路整備などの分野で都市計画不在の展開を余儀なくされてきた。
魚津市がどのような市の未来像を描くべきかは、率直に課題と向き合うことから生まれる。私の課題設定は次の5点である。

- ① 新しい市の未来像の設定
- ② 人口減少と市街地の空洞化対策
- ③ 道路用水路など社会インフラの再構築
- ④ ふさわしい産業振興
- ⑤ 市民参加の基礎組織の再構築、市民参画のあり方

基本構想についての意見

先にも述べたことの繰り返しになるが、将来の魚津市像を具体的に描かれているとは思えない。第1章「魚津市の将来都市像」には抽象的な言葉が並び、過去から未来へつなぐとか主人公は私たちとか現状維持と市民の協働への意図が透けて見える。だから第3章「分野横断的視点」第4章「まちづくりの目標」第5章「政策」いずれもその第1に上げられている

のは「市民参画・協働」「ともにつくるまち」となっている。

魚津市の未来像をしっかりと検討してほしい。私見を述べるなら

- ① コンパクトな地理的条件を行かした都市作り
- ② 現在ある特色魅力を生かした都市作り

である。

コンパクトな地理的条件を生かして都市を再構築、つまり旧市街地を再開発でき、この地域に住宅や子育て施設を整備できれば、移住者を増やせるのではないか。また海岸部に釣りやランニングサイクリングなどの健康レジャー施設を充実させることも人を呼び込む材料となる。すでに、ミラージュランド・埋没林・有磯ドーム・蜃気楼ロード・お魚ランドなどに施設が点在しているが、これらを有効につなげることが大切ではないか。

平野が狭い本市では大きな工場誘致も大規模農業の展開も難しい。

新川地区の中で魚津市が多いのは宿泊施設であり、飲食店である。この特徴を生かすことが未来像につながるのではないだろうか。海産物農産物を飲食店や宿泊施設と連携して、小規模でも高品質・特徴的食材による飲食のまちとしての展開が考えられないだろうか。石崎産業が展開する「雅楽俱」や南砺市の「薪の音」などが参考にならないだろうかと考える。

また、若い人たちの起業の場や活動スペースを提供することで、若者に優しいまちづくりができないか。

私の考える未来像は、工業都市ではなく住みやすく子育てしやすい健康と食の充実した都市像だ。

また、政策としては

- ① 旧市街地の再開発
- ② 道路網の整備
- ③ 自治組織の再編成

②についていうと、8号線の完全片側2車線化の働きかけるとともに、市の横断道縦断道の整備である。

8号線の完全片側2車線化と横断道の整備で通勤時間短縮渋滞解消除雪の短縮につながる。縦断道、例えば魚津インターから海岸線まで縦断する道路や労災病院までのアクセスをよくすることは、住みやすさと観光客誘致に貢献するはずだ。

①についていうと、村木・大町校下はこれから激しく人口が減少し空き家が急激に増加するはずだ。この地区の国勢調査による世帯構成年齢構成や土地取引の現状はどうなっているかを調査すればわかるはずだ。魚津の歴史と伝統が息づくこの地域に個人的にも愛着がある。私の友人は、漁師町らしい諏訪町の入り組んだ細い路地をととても喜んでいた。だが、このまま放置すればゴーストタウン化するだろう。すでに、両小学校が廃校となったことは空洞化の現実を示しているし、市当局もこの地域に住人が減少したことを認識したうえでの統廃合を行ったのだろう。中央通りなどの商店街をどうするか、都市計画をしっかりと立て、魚津市の再生のため再構築を図るべきだ。

私は新たな住宅地として再開発をすべきと考える。新たな転入者の受け皿となるべき住宅地はこの地区でなければならない。平野部の少ない本市の貴重な平坦地を死んだ土地にしてはならない。市・市民の決断が必要だと考える。

③については、自治組織の基礎となっていた、小学校が統廃合された。住民の減少高齢化も深刻となっている。自治組織が神社を中心とした宮総代を頂点とした組織となっている地区もあるが、若い世代を取り込むことはできていないのが現状だ。

真に住民組織として再構築する必要がある。先に述べた都市の再開発再構築でまちが変わることも視野に入れ、これからの世代が参加する組織へ変えるにはどうすべきか、議論すべきだろう。市は町内会が少ない会費によって運営されていることを視野に、その組織やあり方の議論の音頭を取るべきではないかと考える。

以上が私の意見です。